

# 解決と組織を増やす年に！！ 2008年地本旗開きを開催！



発行所  
国鉄労働組合長野地方本部  
長野市中御所3-2-22  
発行者 平山芳夫  
編集者 清水孝次

2008年1月15日  
第1449号

●国労加入を  
大胆に訴えよう！

## 闘う決意新たに！

地方本部は、一月十一日、長野市のホテルメトロポリタン長野で二〇〇八年旗開きを開催した。来賓、各級機関代表者など八十名が参加した。来賓あいさつで伊藤秀樹東日本本部委員長は、二〇〇八年を一〇四七名不採用事件の解決の年に、組織を増やす年にとしようと述べ、三支部からは力強い決意が表明された。田本広鉄道退職者の会事務局長の団結ガンバローで閉会し、長野地本の固い団結を確認した。



佐藤正幸書記長の司会で始まり、平山芳夫委員長のあいさつの後、高橋博久（県労組会議議長、山口わか子（社民党県連代表、中野さなえ（共産党県委員会、伊藤秀樹（国労東日本本部委員長）の四名の来賓各氏からあいさつを頂いた。平山委員長は、「われわれ国労にとつての最重要課題であるJR不採用問題は一刻の猶予もならない状況となっている。闘争団の具体的な三大要求の実現を目指していく。そのため美幌、紋別両闘争団との関係改善とともに全闘争団と解決に向けた取り組みを進める。また全国大会以降十四名が国労に加入している。これはJR東日本との和解や粘り強い職場での努力の結果である。安全安定輸送の確立の闘いと共に組織拡大を推し進めていく。

葉害C型肝炎訴訟にも見られるように、参議院での与野党逆転は民意の表れ。予想される選挙にも組織内候補の当選に向け全力を挙げる。政治を変えて、われわれが求める不採用問題を政治の場で解決するために全力で運動を強める」と述べた。



高橋県労組会議議長は、「昨年はワーキングプアや貧困が大きな社会問題となった。また福祉政策の後退などで働く者に負担となる年であった。今年はゆたか、ゆとりのある生活を実感できる闘いを進めたい」と述べた。また、この日、新テロ特措法が衆議院で再可決され、人殺しの手助けのために、アメリカ軍に給油を続ける法律は許されないと発言。国労へは、国鉄闘争は今こそ解決の年にしなければならぬ。団結して闘えば必ず展望は開ける、と述べ国労にカンパを贈呈した。

懇親会は手島鉄道退職者の会副会長の乾杯の音頭で始まり参加者全員の団結を深めた。最後に、中南信、車両所、東北信の各支部から力強い決意表明が行われ、今年の

年男で鉄道退職者の会の田本事務局長が「美幌・紋別両闘争団との関係修復はたいへんうれしく思う」と述べ団結ガンバローで散会した。

## 新テロ特措法の 衆院再可決に怒！

一月十二日新テロ特措法が、衆議院において自民・公明の与党による三分の二以上の多数を持つて再可決、成立した。前日の十一日には参議院で野党多数により否決された法案であった。

両院で議決が異なった場合の法案について憲法第五十九条では「衆議院で出席議員の三分の二以上の多数で再可決したときは、法律となる」と定められ、これが適用されたもので、一九五一年六月以来半世紀ぶりになる。

昨年十一月一日に失効した旧テロ特措法のもと約六年間に、補給活動は七九四回、無償提供した燃料は四十八万キロリットル、総額二百二十億円を超えたといわれている。さらに、アフガニスタンで活動する艦船に限定されていた補給が、イラクへの攻撃に向かう米艦隊へも行われていた、という疑いが未だに解明されていない。

今回成立した新テロ特措法は、派遣期限は一年間、活動内容は給油・給水に絞ったうえで、国会承認の規程がなくなった。旧法にあった国会承認の規程を削除し、現状の「ねじれ」国会対策としていえると思わざるを得ないが、シベリアンコントロールⅡ文民統制の原則がおろそかになる危険がある。ガソリン価格が一リッター百五十円に高騰し、食料・生活必需品が軒並み値上げされ、低所得層の増大と所得・地域間格差の拡大がますます拡がっている。

こうした国民の窮状を後回しにし、米国への従属と、市民を巻き込んだ戦争への加担でしかない「給油活動」の再開のため、会期延長、衆議院再可決という暴挙を行った与党（自民党、公明党）を糾弾していかなければならない。

# 闘争団との絆深く

昨年12月15日に開催された国労支援長野県共闘会議総会で、6年半に渡って凍結されていた、紋別闘争団、美幌闘争団への支援再開が確認され、関係の修復を図っていくこととなった。3月1日～3日の日

程で支援共闘による紋別・美幌両闘争団との激励交流も再開される。不採用事件の早期解決へ向け、紋別・美幌両闘争団とともに、より強固な団結を築き上げていこう！

紋別闘争団、美幌闘争団からの礼状、ならびに札幌闘争団からの支援米への礼状を掲載する。

### お 礼

先日は総会に紋別・美幌闘争団をお招きをいただきありがとうございました。席上で支援凍結の解除について提案決定され、この間6年半に及ぶ不幸な関係を修復するために大きな一歩を踏み出すことが出来ました。また席上、多額のカンパをいただきましたことに心から感謝を申し上げます。

もちろん今回凍結解除、することで全てが一気に元に戻るものではありませんが、鉄建公団訴訟によって生じた亀裂を克服するため新たな出発点に立てたものと考えます。今後の取り組みなど、様々な機会を利用し溝を埋める努力をしてまいります。

さて、JR採用差別事件は、解決に向けた非常に重要な時期を迎えています。今回の総会での取り扱いは、「四者・四団体の大同団結」をより強化し、地方に拡大する意味で大きな意義があったのだと思います。具体的な闘いは首都東京でなっていますが、それを足元から支える各地方での支援が拡大していることを大衆的に政府の側に示すことは極めて重要です。

本部高橋委員長報告にもありましたが、闘いは今まさに正念場を迎えています。年明けから年度末にかけては、解決に向けて極めて重要であることは言うまでもありません。

私たちは、20年間の悔しさをはらすために何としても納得いく解決をさせる、という気迫を込めた闘いを全力で取り組まなければならないと思っています。長野の皆さんと共に解決の日を喜び合えるよう美幌闘争団としても頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。

2007年12月18日  
国労美幌闘争団 団長 長縄孝則

### お 礼

先日は支援共闘総会にお招きをいただき、その総会において私たちが鉄建公団訴訟に踏み切って以降の支援凍結を解除することが決定され、一時不幸な関係にあった関係の修復がはかられたことで一安心をしました。また席上、多額のカンパをいただきましたことに心から感謝します。ありがとうございました。

もちろん今回の凍結解除で全てが一気に元に戻るものではありませんが、鉄建公団訴訟によって生じた亀裂を克服し、以前のような関係に戻すためのスタートラインに立てたものと思います。

いま、採用差別事件は解決に向けた非常に重要な時期を迎えています。このような時期にあつての今回の総会での取り扱いは、「四者・四団体の大同団結」を地方においても確立し、拡大する意味で大きな意義があったと思います。闘いは中央での政治の動向を現みながらの行動が主になっていますが、それを支える各地方での支援の取り組みが拡大していることを政府の側に示すことは極めて重要です。

本部委員長の報告にもあったように、闘いはいま本当の正念場になっています。年明けから年度末にかけての時期が極めて重要であることは言うまでもありません。私たちもこれ以上延々と闘いを続けるのではなく、解雇されてから17年間の悔しさをはらすためにここで何としても解決させる、という気迫を込めた闘いをして行かなくてはならないと思っています。共に解決の日を喜び合えるよう闘争団としても頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。

2007年12月18日  
国労紋別闘争団 団長 清野 隆

## 伊藤東日本本部委員長旗開き挨拶

### 四つの課題を報告

#### I、JR不採用問題

今年は解決するという強い姿勢でのぞむ。最大の山場と思っている。11・30集会は世論に訴え、四者四団体の協力で成功を収めた。しかし今国会の中では、民主党の先生方にご努力いただいたが、思うような成果が挙げられなかった。この間組合員の皆に報告できる展望は開けていないのは事実だが本部は一生懸命努力している。中味は申し上げられないが、一つ一つ解決に向け前進しているのは事実として受け止めてもらいたい。

#### II、組織を増やす

あえて組織拡大という言葉でなく、組織を増やす闘いと言いたい。和解以後、現場に急激な変化が有るわけではな



いが少しずつでも変化が出てきている。しかし、今ひとつ吹っ切れないものがある。現場からの声を大切にしたい。

#### III、並行在来線問題

長野以北の平行在来線の問題と同時に八戸、盛岡間の問題もあり国労としての見解を早急に明らかにしていきたい。

#### IV、貨物の和解協議

年度内が山になると思われる。2月の会議の中で中間報告を含め、前進を勝ち取っていききたい。

### お 礼

新年明けましておめでとうございます。輝かしく明けました2008年が国労長野地方本部組合員・家族の皆さんにとって大きく飛翔され最良の年となりますように心からご祈念申し上げます。

さて、長野地方本部の皆さんの心のこもった「もち米」が新年になりまして昨日(7日)に配達されました。有難うございました。昨年末には長野県共闘会議と国労長野地本の中南信支部を中心とした支部・分会の皆さんから沢山の「支援米」を届けていただき感激したところでした。更に今回、皆さんから「もち米」いただき、長野の皆さんの気持ちをかみしめ、本当に大きな励ましを感じるものでありました。皆さんの度重なるご厚意に改めて感謝申し上げます。1月20日に開催予定のJR組合員・闘争団員によります、新春交流会の餅つきに使用させていただきます。20年の節目とされた、昨年は解決の枠組みとした「四者・四団体」の統一と団結を基軸として、年内解決を目標に年初から積極的な闘いを展開してまいりましたが「解決」に至らずの結果で終わりました。しかし一年間の闘いの成果は、「11・30全国大集会」の大きな成功に見られる様に、政治解決への基盤や突破口となりうる到達点をつくりだす事が出来たと思っています。それだけに、2008年は新年早々からいよいよ重要な正念場を迎えることになりました。裁判闘争において一程のピーク時を迎え、1月23日には「全動労訴訟」の判決が東京地裁から言い渡されます。私たちはいかなる判決であろうとも一喜一憂せず冷静に受け止め、政治解決に向けた闘いの強化を図り、年度内決着を目指しさらに総団結・総決起することが重要と考えております。

私たち闘争団員・家族は重要局面においてJR不採用事件の一日も早い解決実現に向けて、JR組合員の仲間と共に全力を挙げて奮闘することを決意しております。今日までの長野地本の皆さんの度重なる物心両面にわたる様々なご支援とご協力対しまして改めて感謝申し上げます。なおも闘いは続くと思っておりますので今後も札幌闘争団に対しますご支援を重ねてお願い申し上げます。

以上、簡単ではありますが団員・家族を代表しましてのお礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。

2008年1月8日  
国労札幌闘争団 団長 牧田智雄